

県立病院は県が責任を持って運営すべき！ 柿崎、松代病院等の名前をあげ存続を訴え…任期最後の一般質問

私にとって、今回は任期最後の一般質問でした。県立病院の見直し問題一本にしぼって質問しました。

新潟県病院局が2月10日に明らかにした「県立13病院の役割や在り方の見直し案」では、柿崎病院について、県の運営から地元上越市の運営へと移行する提案をしています。こうした中で、「地元自治体としてどう受けとめたか」「県病院局との協議の状況はどうか」「厚生労働省が進めている公立・公的病院の再編統合の動きと今回の見直し案との関連はどうなっているか」などについて市長に見解を求めました。

これに対して市長は、「当市には、本年1月30日に担当課長が来庁された。その際、柿崎病院の現状やこの間の経営委員会の検討経過について説明を受けたほか、県立病院の役割は『高度急性期・急性期機能や不採算医療に重点化する』とした上で、『地域医療病院』の類型に属し、『へき地病院』と位置付けている柿崎病院について、『市で主体的に運営できないか』との提案があり、意見を求められた。対応した健康福祉部長からは、当市が、上越地域医療センター病院のほか、9つの診療所を運営していること、新たな医療機関を市で保有することは財政負担のみならず医師確保の面からも厳しいとの考えを示すとともに、まずは県が自らの努力で経営改善に努めるべきとお伝えした」と回答しました。

この日の質問で、私は柿崎病院や松代病院等の小さな県立病

院が地域住民のいのち、健康を支える砦となっていることを語り、先月23日に十日町市で行われた学習会の盛り上がりや内容についても紹介しました。

答弁の中で村

山市長は、柿崎病院や妙高病院などの名前をあげながら、「広い県のなかで県立病院として地域医療を守ることは本来あるべきではないか。歴史があって地域に必要な病院だ。地域医療で果たしている役割は大きい。この大きさを県にしっかり伝えていく」とのべました。この姿勢を貫いてほしいと思います。

新型コロナウイルス問題で明らかになったように、いま、医療体制の縮小どころか、十分な病院、ベッド数の確保など医療体制強化が課題です。今後も、県立の柿崎病院、松代病院、妙高病院のほか、上越地域医療センター病院などを守るために全力を挙げていきたいと思っています。



文
教
経
済
常
任
委
員
会
は
19日、少雪などによる(株)キューピットバレイへの減収補てんで、同社の石田和久社長などと呼んで参事人質疑を行いました。

(株)キューピットバレイの石田社長は、冒頭、「このたびの弊社解散につきまして、市、市議会議員の皆様、地域の皆様、利用者の皆様など多数、多方面の皆様にご心配、ご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げたい」と挨拶しました。その後、減収補てんを求めるに至った経過などについて、「今冬は『雪の湯』の休館が余儀なくされ、



【トキワイカリソウ】再掲。メギ科の多年草。漢字で「常盤錨草」と書きます。花は白、形は船のイカリのような感じですが、葉は冬でも枯れることがありません。花言葉は「君を離さない」「旅立ち」。素敵ですね。写真は3月21日に吉川区東田中にて撮影しました。3月に咲いているとは思いませんでした。

株キューピットの石田社長がお詫びと説明

雪が降らず、天候不良に悩まされ続けた。2月中旬以降は新型コロナウイルスの影響を受け、利用者はさらに減少した。グレンデ状態悪化の中で今月8日、今期の営業を終了することにしました。利用者数は6万2000人、昨年の60%となった。宿泊者は昨年の40%だった。これまでに以上に業績悪化を回避できなくなった。3月4日の取締役会で、今月末で指定管理業務を辞退、会社も解散することにしました。会社の解散は昨日の株主総会で正式に決まった」と説明しました。

説明の後、委員からは、「キューピットバレイ等の施設は上越の大事な観光資源だ。やるべきことはやったのか。市の支援を一定程度求めてもよかつたのではないか」などの質問が出ました。石田社長は、「『雪の湯』は今年も営業できない。6月からは久比岐野のお風呂の改修に入る。こうした中で、この夏、耐えきれぬかどうかのポイントだった。市には精いっぱい要望をし、お応えいただいた」と答えました。



No.1953 2020.3.29
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見てある記」はこちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第六〇〇回

デイサービス

よほど楽しかったのでしようね。デイサービスへ行ってきた母が夜になって、しゃべりまくりました。

いつもならデイサービスで出されたお昼のおかずのことが母の話のトップに出てくるのですが、この日は違いました。「あごひげのおじいちゃん」のことが先でした。

その人は、どうやらわが家からそう遠くない所に住む人のようです。デイサービスから迎えに来るワゴン車に乗った時のことから母の話は始まりました。

「あごひげのおじいちゃん、おれのそばにストンと座ってデイサービスに行くがど」そう言った母は、途中の話を省略して、この日、デイサービスで一番印象に残った「稲刈りの話」に入りました。

「デイサービスのしょがそのおじいちゃんに、稲刈りのことを話して、そういうと、そのあごひげのおじいちゃんが、稲刈りしているみてにしながらど……。腰にわら、えつけておいて、サクサクサク、サクサクサク、と声出して刈ると、片手にひとつかみになるだろ。そしたら、またサクサクサク、サクサクサクとやんなる。ふたつ重ねて、今度はわらまるだけだ。わらを両手で持って、たばねた稲の上のせると、右手を下にして、わら持ってくりんと回す。そうするとネジかかると。それで、右手のわらをきゅっと差しこんで……。ほして、かぶつ、ポンポンとはたいて、『こんで終わり』。まあ、上手にこなせるがど……。』
こうして、母は稲刈りのひと工程を一気にしゃべりました。

母が電動イスに乗ったまま話るときは静かに語ることが多いのですが、このときは声も出すし、ジェスチャーも付きました。長年にわたり、蛍場の田んぼで稲刈りをしてきましたので、稲刈り鎌もわらもすべて母の頭の中に入っているのでしょう。それ

らを総動員して手を右に左に動かし、体を揺さぶり、『サクサクサク』とやるのです。デイサービスで「あごひげのおじいちゃん」の形態模写を見たことがきっかけになって、自分でも稲刈り気分をひたっていたのかも知れません。

この日は稲刈りのことだけでは終わらせませんでした。また、「あごひげのおじいちゃん」の話が続いたのです。スタッフの誰かが、冗談っぽく「〇〇さん、あごひげ、ちよびつと切らして」そう言って声をかけたのでしょうか。「あごひげのおじいちゃん」はダメダメそいなったがど……。話をし、母は体を動かしてそのときの様子も再現していました。

お昼の食事の話は、ヒゲを切る話の次にようやく出てきました。いつも感心するのですが、母は出された料理のことをよく覚えています。

「サツマイモ、小さく四角に切ったがにソーセイジも入ってた。そうだ、ミカンの缶詰も入っていたな。それにミカンも出たすけ、むざいて食った」

サラダと果物として出されたミカンは時間差があったはずですが、話は一緒でもいいでしよう。その次は炒め物でした。

「ニンジン、タマネギ、ダイコン、キビのつぶしたがに青いピーマン、豚肉、いっぺ入っていた」

そして最後はみそ汁です。

「おつよのしんのみに、ミョウガ、細かい油揚げ入っていた。ささぎの斜め切りしたかも。豆腐の小さいがも。うんめえごつつおになつていたな」

母は今月、満九六歳に到達しました。体を思うように動かせなくなりつつありますが、デイサービス通いが生きるエネルギー源の一つになっているようです。次回はどうんな話を運んでくるのでしょうか。

上越民主商工会提出の請願 国保税を協会けんぽ並みにして

賛成は共産党議員団と牧田、近藤議員だけ。不採択に

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における 空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。
消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	3月18日(水)	3月25日(水)
上越南消防署	0.050	0.043
上越北消防署	0.047	0.043
新井消防署	0.043	0.053
頸北消防署	0.050	0.043
頸南消防署	0.047	0.057
東頸消防署	0.050	0.050
高士分遣所	0.057	0.053
名立分遣所	0.057	0.047

この請願は、上越民主商工会から提出されました。内容は、全国知事会などが国に対して要求してきたのと同じように、公費支援を増額し、国民健康保険税を協会けんぽ並みに引き下げること、生活に困窮する人の国保税を減免する国の制度をつくることなどの項目の実現を求める意見書を政府関係機関に提出するよう求めたものです。

24日の本会議では日本共産党の橋本正幸議員が賛成討論に立ち、「いま、本市を含む全国で高すぎる国保税が住民の暮らしを苦しめるだけでなく、構造的な危機となり、国民皆保険制度の根幹を揺るがしている。国民健康保険の構造的な問題を解決するには、公費投入しかない。全国知事会、全国市長会、全国町村会なども、定率国庫負担の増額を政府に要望し続けている。請願はこうした大義と市民の願いに沿ったものだ」とのべ、賛成しました。反対討論はありませんでした。

採決の結果、この請願の採択に賛成したのは日本共産党議員団の3議員と市民クラブの牧田議員、近藤議員の5人だけでした。他の議員は反対でした。国民健康保険に入っている市民の切実な願いをもっと重く受け止めてほしいものです。

